

1. 総評

(1) 年度初めの学校の状況 【学校の現状及び前年度の成果と課題】**【学校の現状について】**

○児童について

- ・基本的な生活習慣の定着が進み、遅刻者や欠席者も減少の傾向をたどっている。明るく素直で子供らしい児童が多く、全体に落ち着いた学校生活を送っている。
- ・目標を設定し努力を継続することについては、まだ十分ではない。常に目標をもたせて努力をさせ、その努力の過程を認めて自己肯定感を高め、さらに自分を伸ばす意欲を高めて、頭と心と体のバランスの良い発達を育てる必要がある。

○教師について

- ・校長が定年退職となり、3名の教員が退職し、新規採用1名、校長を含めて5名の教員が異動。1名は7月中旬より育児休業となり、人員の大幅な入れ替えがあった。こうした異動が生じた中でも、主幹教諭・主任教諭を中心に協働し、円滑な学校運営が行われている。

○保護者・地域について

- ・学校の経営計画や課題を理解し、開かれた学校づくり協議会を中心に、PTAOBやPTA役員も積極的に支援体制を強化している。

【前年度の成果と課題】

○重点的な取り組み事項について

①基礎的・基本的な学習内容の定着

S P表や単元テストの躓き解消を図る補習教室を強化し、ステップアップテストも2教科ともにほぼ目標値を達成。6年生については卒業までに達成を目指す。その結果、10月実施の校内学力調査では、4月比2教科総合3.2ポイントアップにとどまった。単元テストでも、8割以上の内容を8割以上の児童が達成するという高い目標値の設定であったが、3月末の国語の達成率は82%、算数の達成率は80%となった。単元終了時の躓き解消の補習体制は効果があった。同様に、前学年の躓き解消や基本事項の完全習得が、定着度の向上に大きく関係することが実践から体得できた。習熟段階を重視した補習の取り組みを継続して、基礎学力をより一層定着させていく。

②心の教育と自己肯定感の育成

一日一賞賛運動の推進で昨年度よりも肯定感は向上している。自分の良さへの認識度率84%、得意なことへの認識度率95%、自分のことが好きと感じる割合は90%であり、3項目平均値は95%で目標を達成。昨年度よりも学校全体で10%の上昇であった。地域での挨拶実施率を重点にしたが、児童の回答では90%を越えているが、地域挨拶運動支援者の評価では低く、隔たりがある。協議会委員や地域のボランティア協力者を継続する働きかけを強めて協働体制を拡大し、確実な校外挨拶実践力向上を図る。

③健康な体づくりと体力の向上

目標としていた欠席者数については達成できなかった。基本的な生活習慣の定着をさらに推進し、遅刻者の減少を次年度も目標とする。体力の向上を図るため、体育集会を新設して、前年度の自己記録をワンステップ更新させる目標をもたせて取り組ませた。6月の体力調査結果では、3種目に向上が見られた。今年度は、持久力を向上させたい。常に一人一人に具体的な目標をもたせ、努力することを重視する。

(2) 今年度の重点目標とそれに向けた取組みの概要**重点的な取組事項－1 基礎的・基本的な学習内容の定着**

- ◎基礎的な学習内容の定着とつまずきの解消を図る取り組みを進め、校内学力再調査を行って習熟度を測る。
- 指導方法を工夫し、国語と算数の単元テストの8割以上の内容を8割以上の児童に定着させる。
- 桜花ステップアップテストを活用して基礎学力を定着させる。合格証を発行して家庭と連携を図る。
- 補習教室を充実させて、必要な児童への支援を強め基礎学力をつける。
- 宿題を毎日課し、家庭で学習する習慣づけを行うとともに宿題の完全提出を粘り強く指導する。

重点的な取組事項－2 心の教育の充実と自己肯定感の育成

- ◎1月に自己肯定感調査を実施する。
- 人権と大切にする教育を進め、挨拶運動を進める。
- 豊かな心を育むため、読書環境を充実させるとともに読書目標値を示して読書を奨励し、達成者を表彰して意欲を高める。
- 自分の良さを人のために生かすボランティア活動を体験させる。

重点的な取組事項－3 健康な体づくりと体力の向上

- ◎前年度の自己記録をもとに各自がワンステップ以上の個人目標を設定し、8割以上の達成を図る。
- 年間通して運動できるように水泳・持久走・縄跳び月間を設定し、自己記録を更新させる。

- 保健衛生指導と食育指導を充実させて、欠席者を減少させる。
- 健康な体作りをするために、生活リズムの定着を図る。リズムが崩れやすい5・9・1月に見直し月間を設定して自己点検させ、結果を家庭と共有して改善につなげる。

重点的な取組事項－４ 小中連携活動の推進と学力向上

- 学力向上を図る小中連携活動を推進するため、年間10回の連携協議会を実施する。
- 授業改善を目指す小中交互の全校授業公開と協議会を実施する。
- 授業交流を通して、躓きを解消する算数指導の連結表、外国語活動と英語学習、国語の学習指導、理科の学習指導における連結表を作成する。
- 体育授業の指導技術の向上を図る。
- 行事交流を継続する。

(3) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

重点的な取組事項－１ 基本的・基礎的な学習内容の定着

○10月実施の校内学力調査の結果は、4月期比較で全校平均正答率は+3.2P。目標値の通過率は81.3Pとなった。教科別の正答率では、国語4.3P、算数2.5P向上。通過率では、国語11.5P、算数3.9P向上。正答率・通過率ともに80点を超え、つまづき部分の解消が進んでいる。1月末現在における単元テストの80点以上の達成率は、国語80%、算数81%であり、ともに前年度より定着が進んでいる。当該学年の基礎的内容の定着を図る「桜花ステップアップテスト」も1月末では、国語93%、算数92%の達成率である。各学年家庭学習時間の平均値では、年間3回の調査結果のいずれも全学年が達成している。達成者の割合も毎回上昇しており、昨年度より10%向上して80%を超えている。宿題の自主提出率は、91.3%である。未提出児童は固定化しており、改善がなかなか進まないため、担任の支援やパレートの協力を得て放課後に完全実施させている。各学級の実績を保護者と共有し、家庭の理解を得て、協力して一生涯の基礎となる学習習慣を完全に定着させていきたい。

重点的な取組事項－２ 心の教育と自己肯定感の育成

○児童の自己評価による地域での挨拶実施率は約93%と高位である。「挨拶応援隊」を全校朝会で紹介し、啓発を行うとともに、ボランティア人数も増員し、朝会での講話や定期的な振り返りを通して意識化と実践を促してきたが、進んで挨拶をする実践力はまだ不足している。自己肯定感を高めるために全校で取り組んでいる「一日一賞賛運動」は様々な呼名や形式で実施されており、実施割合は9割を越えている。固定学級との部分交流も、実施できている。読書活動は、1月末現在で達成者は約70%である。3月末までに8割を達成する見込みである。ボランティア活動は計画通りに実施でき、自分の良さを人のために生かす気持ちを育むことにつながっている。地域清掃活動は、クリーンデイの取組として各学級で実施することができた。5月と1月に実施している自己肯定感調査では、3項目ともに向上している。特に「自分のことがすき」は84%とであった「自分には良いところがある」は90%、「自分には得意なことがある」は95%となり、3項目平均は、89.6%となった。生きる力の源となる自己肯定感は年々向上しており、安定してきている。この取り組みは、本校にとって必要不可欠な項目である。

重点的な取組事項－３ 健康な体づくりと体力の向上

○年間通して体力づくりをめざした取り組みを進めるため、取り組み期間の延長やカードの工夫改善、授業改善等の工夫をしてきており、現在継続中。6月体力調査結果では、課題としていたソフトボール投げの全校平均飛距離が2.5m伸びており、目標を達成。次年度の課題は、持久力の向上である。

○欠席者数は、今年度は1日平均20人となり、増加している。原因として、春先から流行性疾患が発生したことや夏の猛暑も一因となっている。土曜授業日の事故欠席者が多いことも課題である。－300人という目標は達成できなかったが、不登校傾向児童の出席率がわずかながら向上。児童も家族も教員も努力していた。学校給食の残菜率は4月～1月までの平均が2.3%であり、1月は2%だった。年間通して残菜が少なくなっている。

○基本的生活習慣も、定着率の向上が見える。低学年の就寝時刻が遅くなっているという課題が、わずかに改善。高学年の就寝時刻が遅くなってきており、今後も、生活のリズムを整える事が健康な体づくりのもとになり、遅刻や欠席児童の減少につながることを啓発していく。

重点的な取組事項－４ 小中連携活動の充実と学力向上

○学力向上を図る小中連携活動を推進するため、小中ともに視点を絞って全学級の授業公開を行った。また、算数・英語・理科においては、担当者間の授業の交流を進め、各教科においては、授業規律と学習習慣のスタンダードの共有と次年度の授業研究軸となる読むことを通して思考力や表現力をつけさせるために「言語活動に着目した授業研究」の方向を確認することができた。今後、より検証を深めるために指導方法や、授業の展開方法を工夫していく。

(4) 保護者や地域へのメッセージ

○「おうかの子」を合い言葉に、児童には学習場面に合わせて目標をもたせ、その達成にむけて努力させることを大切にしてきました。おうかの「お」は思いやる子。互いの良さを認め合い助け合って

生きる知恵を身につけるために自己肯定感を高める活動や読書活動を大切にしてきました。おうかの「う」は運動する子。健康な体づくりのために、基本的な生活リズムを整え、運動面では自己の目標を決めて記録を伸ばすことに挑戦させてきました。おうかの「か」は考える子。学習したことの8割以上を身に付けること目標にして、様々な取り組みを行ってきました。これらの教育活動は、学校だけで完結できるものではありません。家庭の協力が不可欠です。

今年度も、教職員の放課後学習の継続をはじめ、PTA役員・保護者の皆様・開かれた学校づくり協議会委員やOB会の皆様のご支援で、土曜授業や桜花基礎学習教室への学習支援ボランティアを充実することができました。学力定着取組を維持し、結果に結びついていると思われます。あらためてご協力いただいたことに感謝いたします。

次年度もより一層、桜花小で学ぶ児童の頭と心と体を鍛え、バランスの良い成長につながるよう以下のことについて、特段のご協力をお願いいたします。

①土曜授業日や桜花基礎学習教室などを継続し、基礎学力の定着を進めます。

そのため、学習ボランティアへのご協力をお願いします。

②地域での挨拶率をもっと高めます。

そのため、「挨拶応援隊」へのご協力をお願いします。

③ご家庭にお願いしたいことは

○基本的な生活習慣の定着に御家庭の協力が不可欠です。

前日の内に学校の準備をする、夜更かしをしない、朝は決まった時間に起きる、学校へ送り出す等の保護者の皆様からの働きかけが不可欠です。

○家庭学習習慣を確実に身につけさせましょう。

家庭学習時間が大分増えてきました。しかし、まだ、定着にはなっていません。小学生の時期が肝心です。生涯にわたって学ぶ姿勢や習慣を身に付けさせることを目標にしましょう。

○努力していることや努力したことを認め、ほめることを大切にしましょう。

「自分には良いところがある」「自分にはとくいなことがある」「自分のことがすき」という項目がすべて100%になることを目標にします。

☆自分に自信と誇りをもち、目標をもって努力する心が育てば、学ぶ喜びを知り、達成感も実感できることでしょう。これからも生き生きと学ぶ子どもたちを育てていくことに、ご協力をお願いいたします。

2. 平成25年度の重点的な取組事項

<達成度 ◎:十分に達成 ○:おおむね達成 △:達成せず ●:課題が残る>

重点的な取組事項－1 基礎的・基本的な学習内容の定着

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
基礎的な学習内容の定着を図り、区学力総合調査の目標値の通過率を上げる。	○72%達成	○10月校内調査（前学年） 通過率：4月比 全校 国語 +11.5P 算数 +3.9P 総合 +7.7P ○2月校内調査（当該学年）通過率 全校 国語 73.6% 算数 70.5%	※10月結果は、4月調査結果のSP表を活用して、前学年の躓き内容を補習した効果が出ている。	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
-------------	------	--------	------	---------	-----

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
○国語及び算数の単元テストの正答率を上げる。	○8割以上の内容を8割以上の児童に定着させる。	○国語は、3年以上TT・少人数指導。 ○説明文の読解・単元を貫く言語活動を重視し、全学年が授業研究を実施。 ○算数は、3年以上習熟度別指導。 ○ポートフォリオをもとに担任補習で単元テストの躓きを解消。	○1月末段階で8割以上の内容を習得した児童の割合（達成率）は、 国語約 80% 算数約 81% で達成	○児童の実態からすれば高い目標設定。系統性が高い算数は、躓き解消の学習指導計画実施で前年度比9%向上。国語の達成率は1%向上。	○
○全児童が桜花ステップアップテストを活用して基礎学力を定着させる。	○桜花ステップアップテストは、80点合格、全校児童9割以上の達成率。	○小テストやまとめのテストを実施し合格証を発行。個人カードを作成し、家庭へ周知し連携する。 ○全教員によるスキルタイム指導の実施。	○1月時点の達成率 国語 95% 算数 94% で達成 (予想値)	○基本事項のため、合格するまで繰り返し努力することを重視。図書室での放課後学習の場も活用。今後も継続する。	◎
○前学年の躓きの解消を図り、基礎学力を定着させる。	(10月実施校内学力調査) ○抽出児童個人目標10ポイント向上。	○放課後学習計画・個人カルテ。 ○全教員による放課後補習指導の実施。 ○土曜授業学習ボランティアの活用促進。 ○習熟度グループ編成補習の実施。 ○そだち指導との連携	○該当児童の達成率 国語 平均42.1% 算数 平均35.6% ○そだち指導の対象者のべ20名中、前期卒業生7名(のべ13名)	○抽出対象児童の基礎学力定着は放課後補習、桜花基礎学習教室、足立基礎学習教室等あらゆる手立てを講じて継続した指導を実施	○
○家庭学習習慣の定着を図る。	○宿題の提出率85%以上。 ○全学年目標時間の達成。(30+学年×5)	○家庭への周知と担任による例月指導。 ○自己点検週間の実施(6.9.1月)	○宿題の自主提出率は91.3%。下校後までに完全履修で100%。 ○各学年の家庭学習目標時間の達成率は100%。 全学級達成。	○実施時間も少しずつ伸びている。実施人数の割合も上昇している。目標の達成はしたが、家庭で実施できない児童の割合が固定化。学校で補完継続。	◎

重点的な取組事項ー2 心の教育の充実と自己肯定感の育成

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
○自他ともに尊重し合う行動様式の定着と自己肯定感の向上。	○児童アンケート調査、総合80%以上。	○自己肯定感調査3項目ともに80%を超え、平均89.9%で達成。	○昨年度よりも10%向上。自分のことを好きといえる児童が増加。	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
○挨拶運動と人権教育の推進	○地域での挨拶率80%以上。 ○賞賛運動、年	○5.9.1月の振り返り調査項目に学校外での登下校時挨拶を組み入	○地域での挨拶率自己評価は95%。	○自己評価は高いが地域の他者評価との	

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
	間授業日数の8割で実施。 ○固定学級との交流は全学年2回実施。 ○高齢者との交流は4年以下で1回以上。	れて実施。 ○全学級「一日一賞賛運動」の実施 ○固定学級との校内部分交流活動の実施。 ○高齢者施設の訪問や招待活動の実施。	○一日一賞賛運動の実施率81%で達成。 ○全学年実施。 ○4年以下完全実施。	差がある。 ○互いの良さを見つけて賞賛しあう活動の充実が、自己肯定感の増幅につながっている。	◎
○豊かな心を育む読書活動の推進	○低学年；120冊以上（絵本可） ○中学年；3500ページ（35冊） ○高学年 4500ページ（30冊）の達成者数、全校児童の8割以上。	○週3回の朝読書の設定 ○担任や図書ボランティアによる読み語りの実施。2回以上。 ○10月読書推進月間の設定と年間累積記録カードの確実な活用。 ○読書達成者の表彰(学年末)	○1月末段階 低学年 70% 中学年 68% 高学年 65% 全校 約 67%	○昨年度大幅に上げた目標設定を修正し、わずかに下げた。3月中旬まで継続すると目標値に達する割合も8割を超える見込み。	○
○ボランティア活動の推進	○全学級隣接公園の清掃活動を1回以上実施。 ○地域清掃参加者150人以上	○「クリーンディ」を設定し、定期的に学級単位で実施する。 ○PTAと連携して啓発し、参加者を増員。	○全学年学級実施。 ○参加者目標値達成。花畑中学校 PTA との連携・協力も得られたことが達成に大きく関与している	○隣接する公園はきれいになってきた。 ○昨年度より参加者は10%増加。活動自体の意義をもっと保護者に周知する仕組みを整える必要がある。	○

重点的な取組事項ー3 健康な体づくりと体力の向上

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
○進んで運動し、体力の向上を図る。	○各項目、個人目標達成者8割以上。	○1月現在 全校達成率 78%	○目標値に届く見通し。しかし、低位のため、年間計画と意識づけの方法の改善を図る。	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
○年間通した体力づくり	○水泳・縄跳びは、自己記録を1ステップ更新。 ○持久走は、各学年目標の8割。 ○ソフトボール投げ全校平均飛距離を1M伸ばす。	○縄跳びは週間の設定他、2月には授業での取組を設定。 ○持久走は、全国版持久走カードを用いて、強化週間の他に、主体的に取り組む月間を設定。 ○全学年、6月までに授業の中に投げる運動をショートで取り入れる。	○自己記録の達成度 ☆水泳 61% ☆縄跳び 82% ○学年目標達成度 ☆持久走 80% ○ソフトボール飛距離 2.5M 達成率 100%。	○縄跳びの目標の達成はできる見通し。持久走は委員会で改善を図る。ソフトボール投げの取り組みは、土曜日授業の機会を生かした全学年の指導の効果あり。達成の割合が高かった。	○
○保健衛生指導と食育指導の推進	○欠席者数前年度比ー300人	○保健便りを通して、保健指導を行う。	○流行性胃腸炎や猛暑、インフルエンザへ	○欠席者の減少のみ未達成。	

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
進	○歯の治療報告者治癒率10%以上向上 ○全校残菜率5%未満	○校医と連携し、前期中に染め出しによる歯磨き指導を全校実施。 ○ランチルームの2回以上の活用と担任と栄養士による食育指導の実施。 ○学級ごと例月調査「残菜0目標」設定。	の罹患者等々の理由から+150に転じた。 ○虫歯の治癒率10%向上。虫歯なし児童も12%増加。 ○ランチルームの各学級利用率4回。食育指導も実施。 ○年間平均全校残菜率2.3%。	土曜授業日の事故欠席者の増加を減少させることが必要。4月当初の保護者会での啓発を図る。	○
○基本的な生活リズムの定着（早寝・早起き・朝ご飯）	○各項目80%以上。	○5.8.1月の見直し月間の設定と振り返り調査の実施。 ○生活指導部と保健部と特活部の協働で、9月の学校保健員会での啓発、1月に早寝実践事例を活用し、紹介集会を実施する。	○早寝73.5%。 ○起床85.6%。 ○朝食98%。 ○1月の集会は2月に実施。	○冬場に落ち込む早寝・早起きは約5%向上。朝食は年間通して安定している。低学年の夜行性は要注意。啓発を深める。	○

重点的な取組事項－４ 小中連携活動の推進と学力向上

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
○連結表をもとに、選択教科の課題となる項目を強化する指導方法の工夫と教科スタンダードの作成。	○国語・算数・理科・体育・英語うち3教科以上の教科スタンダードの完成。	○教科スタンダードの完成には至らず	○小中で共通する「家庭学習スタンダード」作成を目指す	●

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
○連携授業研究会を通じた指導法の工夫。	○小中各3本ずつ。計6本。（低・中・高ブロック各1本）	○管理職と推進者で、連携会議を年4回実施し、進捗状況を確認し推進する。 ○計6回の授業研究会の日程調整をする。 ○言語活動を重視した授業展開の手法を体系化する。 ○ブロック責任者が教科連携推進者となり日常的に連絡を取り合う。 ○指導案作成の段階から担当者間で連携をする。	○連携会議と授業研究は計画通り実施。各教科ごとの指導案検討の企画を設定し、小中が接続するため目標と手立てを確認して授業研究を実施することができた。	○双方、授業公開の視点を絞って実施。学力向上につながる授業研究にすることを意識化。次年度の方方向性確認。	○
○自主授業交流会の推進。	○10月に調査持久力・柔軟性の5%アップ。	○高学年児童の体育授業において、前半10分を活用したプログラムを6か月間試行してデータ確認。	○相互にTT授業。授業の理解と指導法の工夫が進んでいる。水泳、マラソンでの取組の結果から5%のアップは確認できた。	○次年度は協働できる機会を生活指導等学習以外にも拡大する	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
○外国語活動と英語学習の連結。	○小学校外国語活動と中1の英語指導年間指導計画連結表の作成。	○4年対象に「外国語活動に触れる学習活動」を中学校英語教員が行う。	○英語授業ガイドスは、日本語を使わない授業体験となった。 ○4年生の触れる活動は計画通り実施。 ○英語のアドバイザーや中学の英語教員、小学校の担当者の連携が進んでいる	○主幹や担当者と中学校の英語担当教員、アドバイザーの支援等が相互にかみ合い充実。	○
○国語の学習指導における連結。	○小中共通に重視する指導事項を明確にして整理。	○読み取る力を育てる指導の工夫。年3回授業研究会を開く。 ○中学校の国語とのつながりを視点に協議するため、中学校長を講師として助言いただいた	○中学校長も助言者として招へいし、中学の学習指導の立場から助言を受けた。桜花スタンダードへ生かした。	○研究授業は実施した。連結を意識した指導方法の整理には至らなかった。授業規律や授業展開の基本は整理できた。	△
○理科の学習指導における連携。	○理科の授業研修会を1回以上実施。	○高学年の理科授業を対象にして、1月までに中学校理科担当教員を講師に招いて研修を行う。	○「理科スタンダード」の実践を基に研修。2月末には理科の連結表を完成させる予定。	○担当者間で事前打ち合わせを互いに行き来して数回行い、授業研究を実施	○
○体育授業の指導技術の向上。	○1回以上陸上技術指導の機会を設ける。	○10月の連合陸上大会に向けて、中学校陸上専門教員の専門的な指導助言を受ける機会を設け、技術指導の交流をする。	○2回指導を受けることができた。指導者も2名で協議。指導案を作成して記録に残した。 ○送り出した中学校での生徒の課題が持久力と柔軟性の向上ということも分かった。	○具体的な指導から小中での課題が明らかになってきた。	○
○行事交流の継続。	○全項目完全実施。	○小中相互の運動会に児童・生徒が参加する。 ○中学校生徒に、10日間のサマースールの学習ボランティアとして協力してもらう。 ○6年が部活体験や文化祭に参加して見分を広める。	○5月の運動会に中学校部活チームが参加。10月の中学校運動会は、台風の影響で中止。 ○10間のサマースールにだけでなくボランティア活動にも参加が積極的である	○これらの交流は定着しており、連携理念の基盤となっている。継続していく。	○

3. 学校活動全般について

○学力向上重点校としての指定を受けてきた経験をいかし、指定が解かれた後も、学力向上を図る取り組みを重視し継続してきた。今年度も、「そだち指導」のような躰きの解消を図る取り組みの指定校として、実践を重ねてきた。今年度も学習の積み重ねが強くなっている。反対に、年々児童の特性に合わせて個々に対応する必要度が高くなり、人的支援の必要性も高くなっている。特に、日本語の習得が進みにくい児童への支援に窮しており、緊急の支援を必要としている。

総体的には、「おうかの子」を合言葉に、児童が自己肯定感を高め、自分の目標を明確にもって努力する生活が整ってきていると言える。このことは、全教職員が協働して教育活動にあたり、「頭と心と

体」の発達をバランスよく促す取り組みを継続させてきた結果である。次年度は、今年度効果のあったことを継続するとともに、十分に達成を図ることができなかった以下のことを重点的に充実させたい。

1、基礎的・基本的な学習内容の8割定着をすすめる

3年以上の算数・国語の少人数指導やTT指導で

きめ細やかな定着度の看取り

教科指導員による教員授業力向上(本校を拠点校とする。6年次以下の若手教員を対象)

そだち指導によるつまずきの解消(3・4年対象 国語・算数の2教科)

2、定着度を補う補習指導

(1) 単元ごとのこまめな補習

(2) 既習内容の躓きを解消する補習の充実

① 躓きを少なくして学習の積み重ねを確実にする放課後補習体制の継続

② 到達レベルを決めて補習をする土曜「桜花基礎学習教室」の継続

3、授業規律の定着と授業改善の推進

(1) 授業規律の定着

(2) 学習のスタンダードの定着⇒「桜花学習スタンダード」の作成・定着

(3) 活用力を伸ばす授業の充実: 言語活動を重視して

4、読書活動をささえる環境設定の整備。新聞を活用した学習の推進

5、体力向上を図る計画の見直し⇒持久力・柔軟性をバランスよく伸ばす指導

6、言語活動に着目した小中連携の授業研究の推進

○、その他

生涯にわたって社会生活に必要な挨拶習慣の定着は、小学校時代に身に付けさせたい。学校内から校外での挨拶もできることを目標に、地域ボランティア組織も作り、定着を図る教育活動にご支援をいただいていた。ようやく返礼ができる段階まで向上している。まだまだ時間のかかる活動ではあるが、三者で子供を育てる教育の場の一つとなり、地域社会とつながる活動でもあるため、継続していく。